



日刊サンローカルコミュニティニュース

きもの国際SDGs推進協会 カラカウア通りでパレード

「持続可能な着物文化を 世界に伝えたい」

きもの国際SDGs(エスディージーズ)推進協会が先月29日、ワイキキのカラカウア通りで「着物を着て歩く」イベントを開催した。日本とハワイから9人が参加。それぞれがリメイクやユーズドの着物を身につけ、通行人らに持続可能な日本の着物文化をPRした。



リユースの着物姿でカラカウア通りを歩き、持続可能な日本の着物をPR

イベントを主催した土方一二夫東海支部長は、「日本の着物文化を世界に伝えるとともに、リユース、リメイクによって持続可能な着物を次世代に伝えていくことが活動の主な目的です」と話した。参加者らの着物は全てリユース、リメイクされたもので、土方さんが愛知県で営む衣類商「誠」が用意したもの。SDGsのタスキをかけ、笑顔で歩く着物姿の参加者らにカメラを向ける通行人の姿も見られた。

SDGsとはSustainable Development Goalsの略で、2015年9月に国連総会で採択された持続可能な開発を目的とした国際目標。17項目、169の達成基準と232の指標が定められている中で、「つくる責任・つかう責任」(Responsible Consumption and Production)、「持続可能な生産消費形態を確保」を焦点に、リメイクなどにより何世代にもわたって着られる着物のアップサイクルが注目されている。

(取材・文/佐藤リン友紀)



きもの国際SDGs推進協会土方一二夫東海支部長(左から3人目)と参加者の皆さん



さまざまな色や柄のサーフボードと着物。歩く途中で意外な共通点を発見